

黒毛和種牛枝肉表面の切除法とスポンジ法における 衛生指標菌数の比較

小林光士¹⁾ 古内功二¹⁾ 小野寺 仁¹⁾ 小池史晃¹⁾ 辻 芳裕¹⁾
永瀬正幸¹⁾ 森田幸雄^{2)†} 豊福 肇³⁾



本文はこちら

1) 飛騨ミート農業協同組合連合会 (〒 506-0047 高山市八日町 327)

2) 麻布大学獣医学部 (〒 252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)

3) 山口大学共同獣医学部 (〒 753-8515 山口市吉田 1677-1)

(2021年8月31日受付・2021年11月29日受理・2022年1月15日公開)

要 約

牛枝肉表面の切除法とスポンジ法による衛生指標菌数を比較した。2020年の冬期と夏期に30頭ずつ、切除法は臀部、ともばら2カ所及び胸部を計20cm²採取、スポンジ法は切除法の隣接部位を計400cm²拭き取った。60検体の切除法による一般生菌数(平均±標準偏差)は1.50±0.79 log cfu/cm²、腸内細菌科菌群は0.44±0.21 log cfu/cm²、スポンジ法は各々1.00±0.48 log cfu/cm²及び0.29±0.12 log cfu/cm²であった。切除法の一般生菌数及び腸内細菌科菌群数はスポンジ法のそれらと比べて高かった($P<0.01$)。一般細菌数の回帰式は $y=0.25x+0.62$ 、決定係数(R^2)は0.17であった。切除法の一般細菌数を予測するために実施するスポンジ法の信頼度は低いと思われた。

——キーワード：牛枝肉表面，切除法，スポンジ法。

-----日獣会誌 75, e24～e28 (2022)